

「米に関するマンスリーレポート」 ハイライト

令和7年6月号

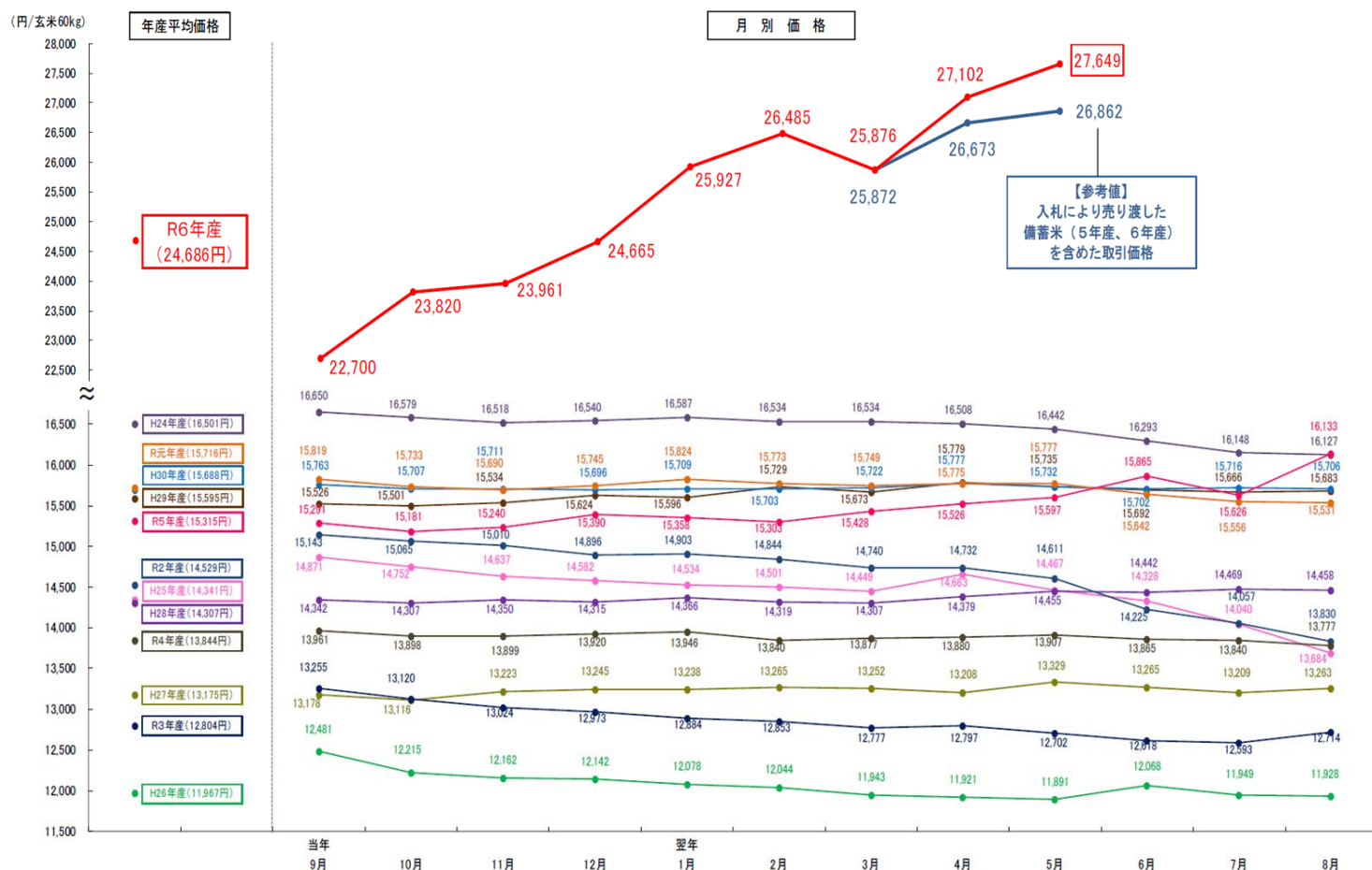


■ 価格関連	
└ 相対価格	3
└ D I	4
└ 消費者物価指数	5
└ 小売物価統計	6
└ P O S 動向	7
■ 流通関連	
└ 民間在庫状況	8
└ 集荷・契約・販売数量	9
■ 需給見通し	10
■ 需要関連	
└ 消費動向	11
└ 備蓄米の政府買入	12
└ 輸出動向	13
■ 供給関連	
└ 作付動向	14
└ 政府備蓄米の売渡し①	15
└ 政府備蓄米の売渡し②	16
└ 政府備蓄米の売渡し③	17
└ 輸入動向	18

年産別の相対取引価格（速報）

- 令和6年産米の令和7年5月の相対取引価格は、備蓄米の取引を含む全銘柄平均で27,649円/60kgとなり、対前年同月+12,052円（+77%）、対前月+547円（+2%）。取扱数量は、5.2万トンとなったところ。
- 令和6年産米は、例年より早いペースで取引（契約）が進み、令和7年5月で取引（契約）は終盤となっていることから、5月の取引価格の上昇が令和6年産米の取引全体に与える影響は小さい。
- なお、令和7年3月以降の米の取引価格の参考として、令和5年産の備蓄米も含めると、26,862円/60kg。
- 令和7年5月までの年産平均価格24,686円/60kgは、出荷業者と卸売業者等の間の取引価格としては、比較可能な平成2年以降で過去最高の価格である。

相対取引価格の推移（税込）（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額（平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%）を含む1等米の価格である。

2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（6年産は出回りから令和7年5月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

3：令和5年産の備蓄米は、政府備蓄米の買戻し条件付売渡しの販売数量等の報告から集計。

- 米穀機構の米取引関係者の判断に関する調査(令和7年5月分)によると、主食用米の需給動向の現状判断は前回調査と比べて+1ポイントの「横ばい」、見通し(向こう3ヶ月)判断は±0ポイントの「横ばい」。
- 米価水準の現状判断は前回調査と比べて-1ポイントの「横ばい」、見通し(向こう3ヶ月)判断は±0ポイントの「横ばい」。

国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

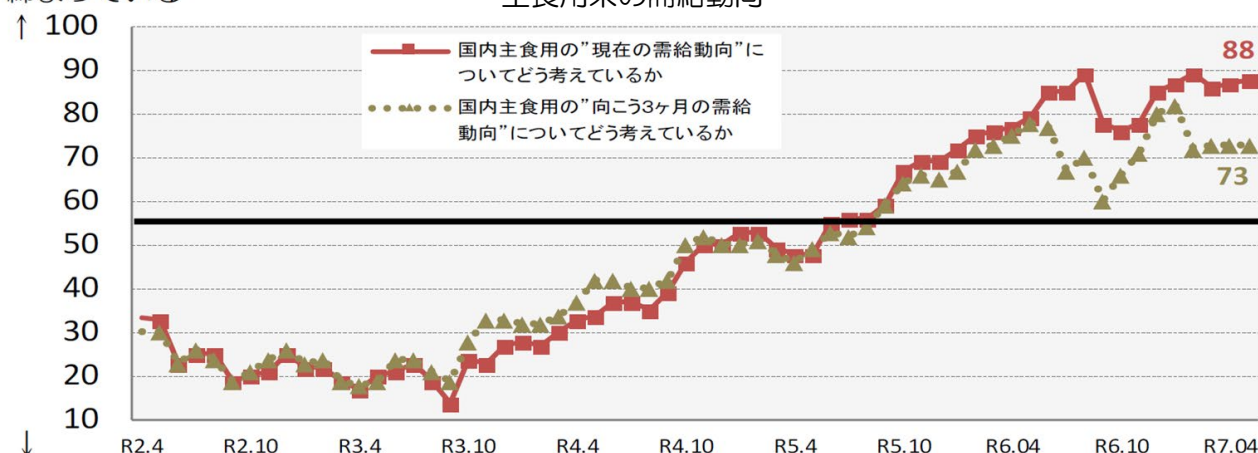
① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断 D I 前回からの増減 +1 (今月の数値 88)

(イ) 見通し判断 D I (向こう3ヶ月) 前回からの増減 ±0 (今月の数値 73)

締まっている

主食用米の需給動向



緩んでいる

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

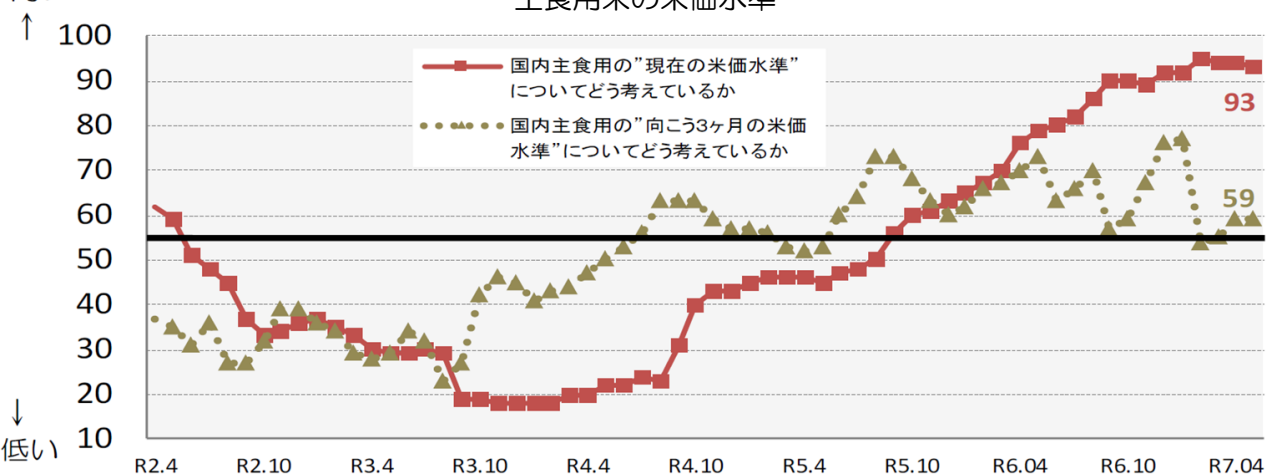
② 主食用米の米価水準

(ア) 現状判断 D I 前回からの増減 ▲1 (今月の数値 93)

(イ) 見通し判断 D I (向こう3ヶ月) 前回からの増減 ±0 (今月の数値 59)

高い

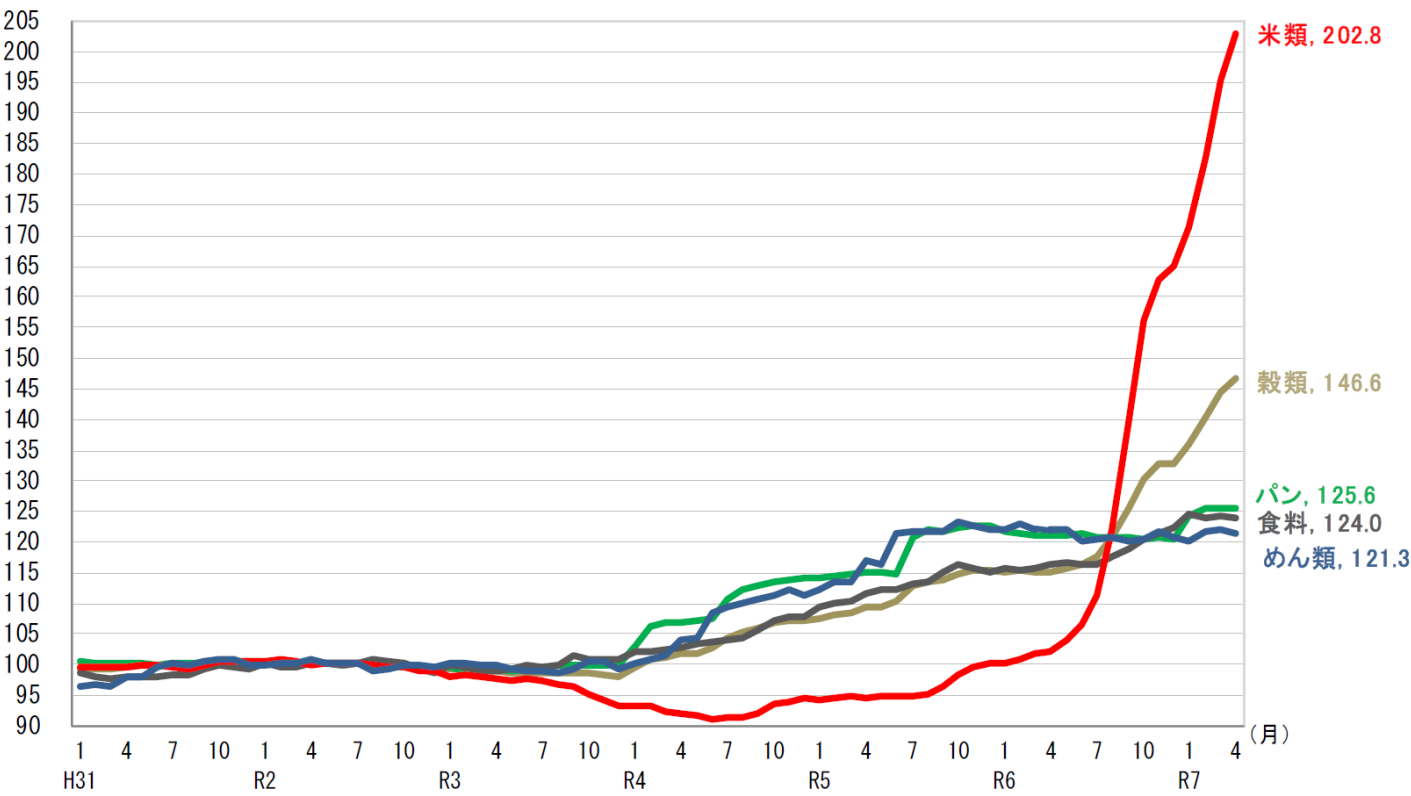
主食用米の米価水準



低い

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

- 総務省が公表している消費者物価指数（令和2年基準）によると、令和7年4月の米類の指数は対前年同月比 +98.4%の202.8ポイント。



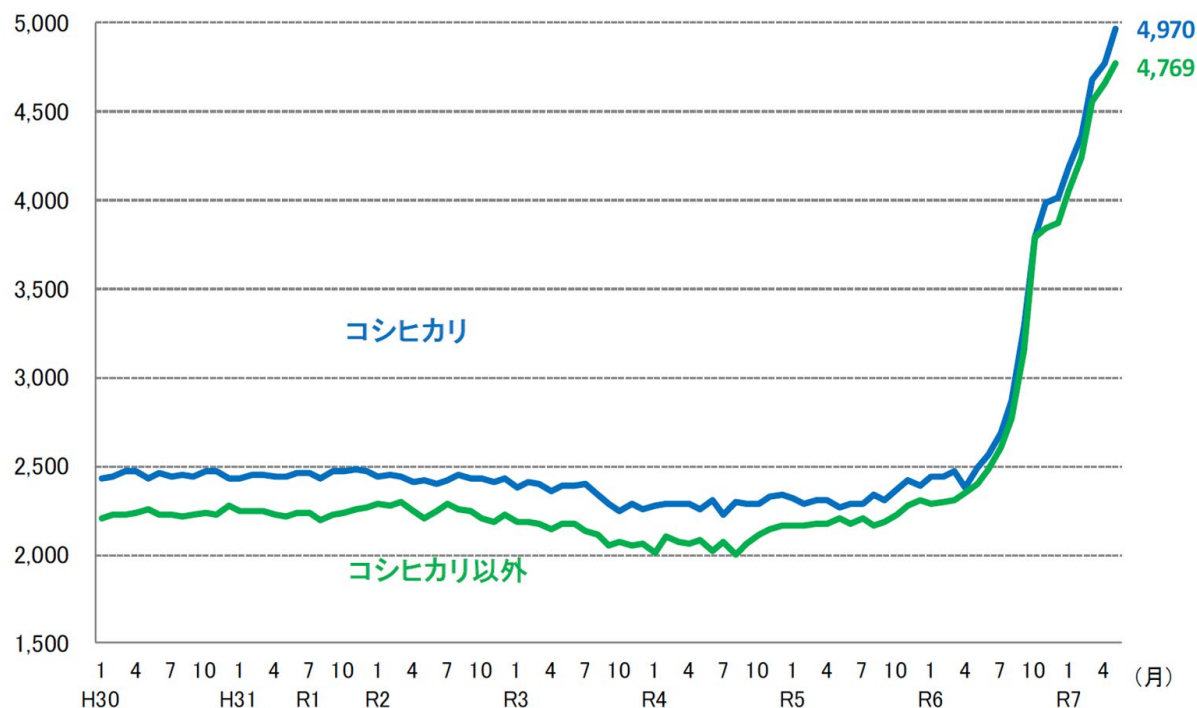
(令和2年 = 100、指数)

	食料		穀類		米類 (うるち米)		うるち米 (コシヒカリ)		パン		めん類	
		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比
令和元年 (平均)	98.7	0.4%	99.9	0.9%	99.9	0.2%	100.1	0.9%	100.3	0.9%	99.1	2.2%
2年 (平均)	100.0	1.4%	100.0	0.1%	100.0	0.1%	100.0	▲0.1%	100.0	▲0.3%	100.0	1.0%
3年 (平均)	100.0	0.0%	98.8	▲1.2%	96.8	▲3.2%	96.7	▲3.3%	99.5	▲0.5%	99.7	▲0.3%
4年 (平均)	104.5	4.5%	103.7	5.0%	92.6	▲4.3%	93.3	▲3.5%	109.6	10.1%	107.1	7.4%
5年 (平均)	112.9	8.1%	111.5	7.5%	96.1	3.8%	96.3	3.2%	118.4	8.1%	118.9	11.1%
6年 (平均)	117.8	4.3%	121.0	8.5%	122.8	27.7%	121.1	25.8%	121.0	2.2%	121.4	2.0%
令和7年 1月	124.7	7.8%	136.1	18.4%	171.3	70.9%	169.4	69.2%	124.3	2.0%	120.0	▲1.7%
2月	124.1	7.6%	140.5	21.9%	182.6	80.9%	180.4	80.1%	125.5	3.4%	121.6	▲1.3%
3月	124.2	7.4%	144.5	25.4%	195.3	92.1%	192.8	91.3%	125.6	3.7%	121.9	▲0.2%
4月	124.0	6.5%	146.6	27.4%	202.8	98.4%	199.7	98.2%	125.6	3.8%	121.3	▲0.5%

資料：総務省「消費者物価指数」2020年基準、品目別価格指数（全国）

- 注1：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
注2：穀類は、米類（うるち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
注3：令和元年～6年のデータは年平均であり、7年は月次データである。

- (円/5kg、包装・消費税込み)



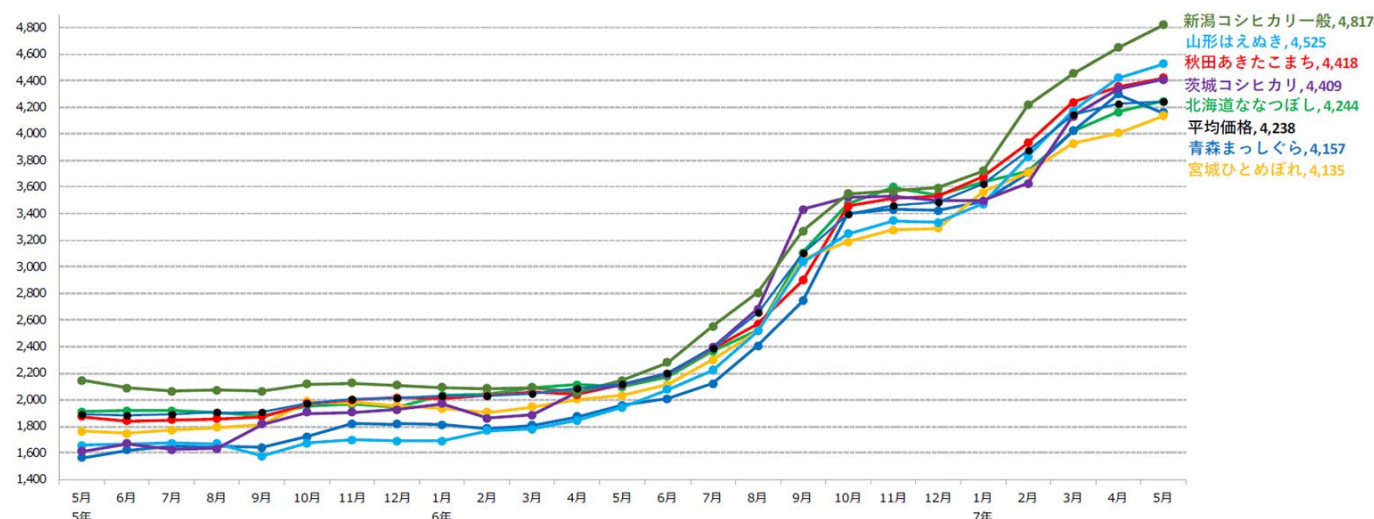
(円/5kg、包装・消費税込み)

月次(令和7年)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コシヒカリ	4,185	4,363	4,679	4,770	4,970							
前年同月比	71.5%	78.7%	89.4%	100.1%	99.6%							
コシヒカリ以外	4,051	4,239	4,557	4,654	4,769							
前年同月比	77.4%	84.3%	97.6%	98.3%	98.5%							

注：東京都区部における精米価格である（7日以内の特売分を除く）。

- 令和7年5月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、対前月差+13円(+0.3%)、対前年同月差+2,116円(+99.7%)の4,238円。

円/5kg袋販売時換算(税込)



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注1：(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

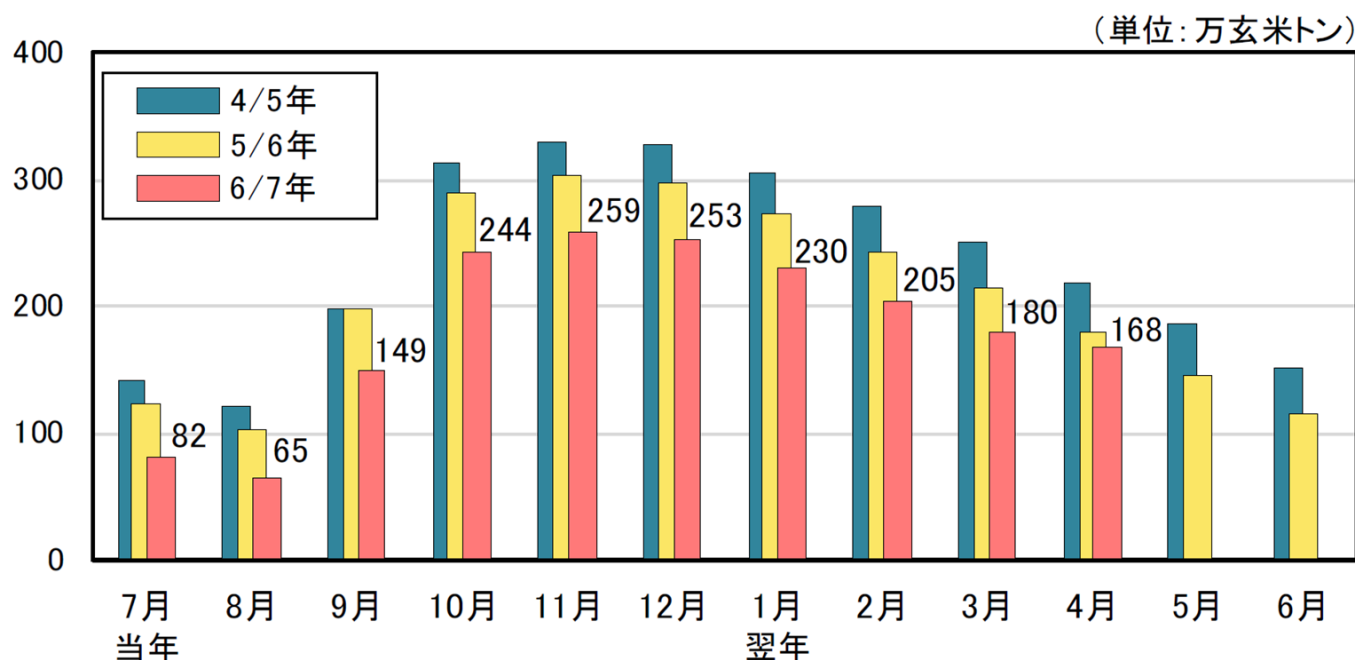
注2：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

注3：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

注4：全POS取引平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

注5：価格に含む消費税は8%である。

- 令和7年4月末の出荷及び販売段階における民間在庫は、対前年同月差▲12万トンの168万トンとなっている。また、流通段階別でみると出荷段階で対前年同月差▲14万トンの126万トン、販売段階で+2万トンの43万トンとなっている。



資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

4 期間については、6/7年であれば、令和6年7月～7年6月である。

5 令和7年3月以降には、売り渡した政府備蓄米の数量（令和7年4月末時点で16.4万トン）を含む。

流通関連－集荷・契約・販売数量

集荷・契約・販売数量（全国計）

（単位：千玄米ト）

		作 況 指 数	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約 比率 ②/①	販売数量 ③	販売 比率 ③/①	参考：前年同月比 （5年差の同時期との比較）		
								集荷数量	契約数量	販売数量
								95%	99%	101%
全 国 ①		101	2,404	2,348	98%	1,391	58%			
参 考	前年同月（令和5年産）②		2,536	2,369	93%	1,381	54%			
	前年同月差（①―②）		▲ 132	▲ 21	+ 5%	+ 10	+ 4%			
	備蓄米（令和6年産）		139			38				

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

- 令和6/7年の需給見通しについては、需要量を674万トンと設定。この結果、令和7年6月末民間在庫量は158万トンと見通されます。
- 令和7/8年の需給見通しについては、需要量を663万トンと設定。令和7年産主食用米等の生産量の見通しは、令和6年10月の基本指針で設定した683万トンとします。この結果、令和8年6月末民間在庫量は178万トンと見通されます。

令和6/7年及び令和7/8年の主食用米等の需給見通し

(単位：万トン)

令和6/7年	令和6年6月末民間在庫量	A	153
	令和6年産主食用米等生産量	B	679
	令和6/7年主食用米等供給量計	$C = A + B$	832
	令和6/7年主食用米等需要量	D	674
	令和7年6月末民間在庫量	$E = C - D$	158

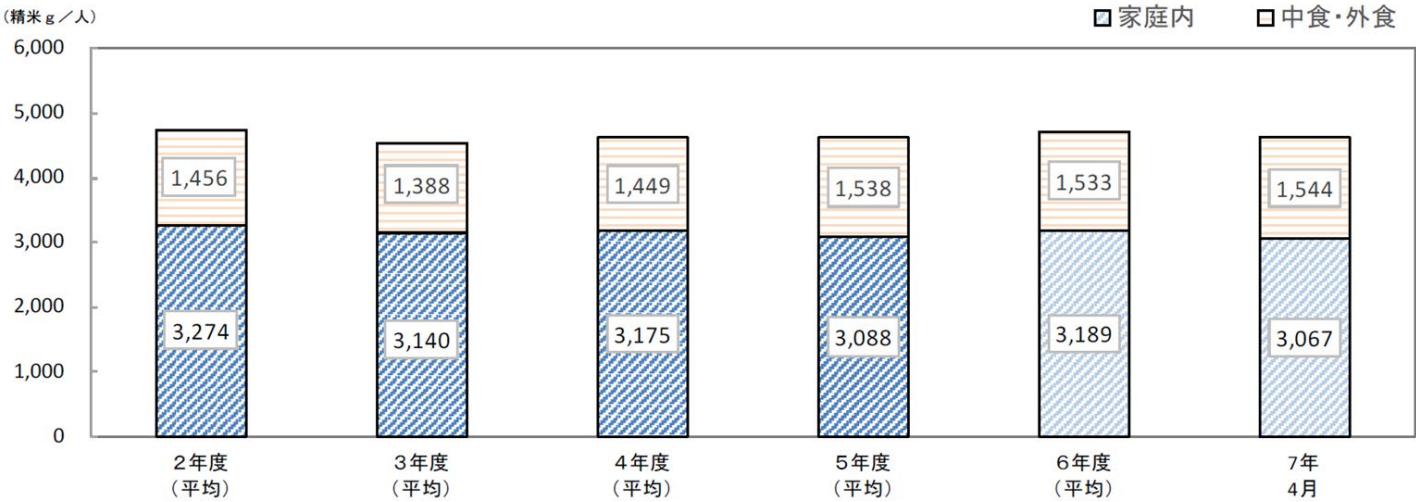
令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	E	158
	令和7年産主食用米等生産量	F	683
	令和7/8年主食用米等供給量計	$G = E + F$	841
	令和7/8年主食用米等需要量	H	663
	令和8年6月末民間在庫量	$I = G - H$	178

注1：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。

注2：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向調査」(令和7年4月分)によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、対前年同月比▲9.4%。
- このうち、家庭内での消費量は対前年同月比▲10.8%、中食・外食では▲6.7%。

1人1ヵ月当たり精米消費量



	精米消費量 (g)					内訳比率 (%)					前年同月比 (%)				
	合計					合計					合計				
		家庭内	中・外食	中食	外食		家庭内	中・外食	中食	外食		家庭内	中・外食	中食	外食
2年度	4,730	3,274	1,456	954	502	100.0	69.2	30.8	20.2	10.6	2.2	5.1	▲3.7	7.8	▲19.9
3年度	4,529	3,140	1,388	906	482	100.0	69.3	30.6	20.0	10.6	▲4.2	▲4.1	▲4.7	▲5.0	▲4.0
4年度	4,625	3,175	1,449	918	531	100.0	68.6	31.3	19.8	11.5	2.1	1.1	4.4	1.3	10.2
5年度	4,626	3,088	1,538	963	574	100.0	66.8	33.2	20.8	12.4	0.0	▲2.7	6.1	4.9	8.1
6年度	4,722	3,189	1,533	929	604	100.0	67.5	32.5	19.7	12.8	2.1	3.3	▲0.3	▲3.5	5.2
令和7年 4月	4,611	3,067	1,544	944	600	100.0	66.5	33.5	20.5	13.0	▲9.4	▲10.8	▲6.7	▲6.3	▲7.3

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注1：令和7年4月分の有効調査世帯数は1,901世帯。
2：令和2～6年度は各年4月から翌年3月までの平均値である。
3：調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。
4：家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。
5：集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が令和2～3年度は平成27年国勢調査、令和4～6年度は令和2年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うようウェイトバック集計を実施した上で推計。
6：四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

需要関連－備蓄米の政府買入

令和6年産備蓄米の政府買入入札は、全7回を実施。
買入予定数量205,509トンに対して、172,016トン（83.7%）の落札。

令和6年産備蓄米の買入入札結果

(単位:トン)

産地	買入予定数量 (優先枠) ①	落札数量 ②	落札率 ②/①
北海道	4,686	4,686	100.0%
青森	28,586	24,416	85.4%
岩手	3,415	3,415	100.0%
宮城	11,276	11,276	100.0%
秋田	21,322	14,512	68.1%
山形	20,195	20,195	100.0%
福島	26,313	26,313	100.0%
茨城	1,086	616	56.7%
栃木	6,184	5,773	93.4%
群馬			
埼玉	204	204	100.0%
千葉	662	642	97.0%
東京			
神奈川			
新潟	24,499	24,499	100.0%
富山	11,880	10,261	86.4%
石川	7,841	874	11.1%
福井	4,597	2,500	54.4%
山梨			
長野	1,449	1,352	93.3%
岐阜	423	423	100.0%
静岡	19	19	100.0%
愛知	835	722	86.5%
三重	262	-	0.0%
滋賀	1,327	1,159	87.3%
京都			
大阪			

産地	買入予定数量 (優先枠) ①	落札数量 ②	落札率 ②/①
兵庫			
奈良			
和歌山			
鳥取	389	389	100.0%
島根	126	126	100.0%
岡山	822	191	23.2%
広島	28	28	100.0%
山口			
徳島	933	235	25.2%
香川			
愛媛			
高知	10	10	100.0%
福岡	52	35	67.3%
佐賀	214	-	0.0%
長崎			
熊本	274	-	0.0%
大分	91	91	100.0%
宮崎			
鹿児島			
優先枠計 ①	180,000	154,962	86.1%
一般枠 ②	25,509	17,054	66.9%
合計 (①+②)	205,509	172,016	83.7%
うちCPTPP分		5,509	

(参考) 買入入札結果の推移

(単位:トン)

年産	買入予定数量 ①	落札数量 ②	落札率 ②/①
平成23年産	200,000	67,638	33.8%
平成24年産	200,000	83,390	41.7%
平成25年産	250,000	183,092	73.2%
平成26年産	250,000	250,000	100.0%
平成27年産	250,000	250,000	100.0%
平成28年産	225,000	225,000	100.0%
平成29年産	200,000	197,728	98.9%
平成30年産	200,000	122,949	61.5%
令和元年産	209,140	185,314	88.6%
令和2年産	207,000	207,000	100.0%
令和3年産	207,000	207,000	100.0%
令和4年産	207,000	207,000	100.0%
令和5年産	208,000	201,725	97.0%
令和6年産	205,509	172,016	83.7%

2025年1～4月の米・米加工品の輸出額は223億円（対前年同期比+17%）となった。
うち米の輸出実績は対前年同期比+28%の45億円、米菓は+1%の19億円、日本酒は+15%の152億円、パックご飯等は+66%の6億円、米粉及び米粉製品は-16%の0.3億円。

品 目 名		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年		(参考) 主な輸出先国 ・ 地域
						1～4月	対前年 同期比	
米・米加工品	数量 (原料米換算)	45,959トン	53,931トン	58,472トン	67,922トン	23,588トン	+15%	アメリカ 中国 香港 台湾 韓国
	金額	524億円	613億円	576億円	636億円	223億円	+17%	
米 (援助米を除く)	数量	22,833トン	28,928トン	37,186トン	45,112トン	15,784トン	+18%	香港(13,474) アメリカ(8,784) シンガポール(6,406) 台湾(3,577) カナダ(2,138)
	金額	59億円	74億円	94億円	120億円	45億円	+28%	
米菓 (あられ・せんべい)	数量	5,141トン	4,523トン	4,565トン	4,656トン	1,314トン	-3%	アメリカ 台湾 香港 韓国 サウジアラビア
	原料米換算	4,370トン	3,845トン	3,880トン	3,958トン	1,117トン	-3%	
	金額	56億円	55億円	61億円	66億円	19億円	+1%	
日本酒 (清酒)	数量 キロリットル	32,052	35,894	29,194	31,054	11,010	+10%	中国 アメリカ 香港 韓国 台湾
	原料米換算	18,054トン	20,218トン	16,444トン	17,492トン	6,202トン	+10%	
	金額	402億円	475億円	411億円	435億円	152億円	+15%	
パックご飯等 (加工米飯を含む)	数量	1,129トン	1,384トン	1,593トン	2,298トン	839トン	+46%	アメリカ 台湾 香港 オーストラリア シンガポール
	原料米換算	594トン	727トン	837トン	1,208トン	441トン	+46%	
	金額	6億円	8億円	10億円	14億円	6億円	+66%	
米粉及び米粉製品 (米粉麺等)	数量	88トン	173トン	101トン	123トン	36トン	-31%	アメリカ タイ ドイツ ロシア 台湾
	原料米換算	108トン	213トン	125トン	152トン	44トン	-31%	
	金額	0.6億円	1.0億円	0.8億円	1.1億円	0.3億円	-16%	
米・パックご飯・加工米飯 ・米粉及び米粉製品	数量 (原料米換算)	23,535トン	29,868トン	38,148トン	46,472トン	16,269トン	+19%	香港 アメリカ シンガポール 台湾 オーストラリア
	金額	66億円	83億円	105億円	136億円	52億円	+31%	

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）
注1：米粉及び米粉製品のうち米粉製品の原料米換算は米粉100%として推計。
注2：「（参考）主な輸出先国・地域」は2024年の輸出金額上位5か国・地域を記載。米に関しては、2024年の輸出数量（トン）を記載。

令和7年産米等の作付意向（過去実績との比較、令和7年4月末時点）

- 農林水産省では、産地・生産者が主体的に作付けを判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、都道府県別の作付意向を聞き取り、公表。過去5年間の各作物の作付推移は次のとおり。

【主食米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】 (万ha)

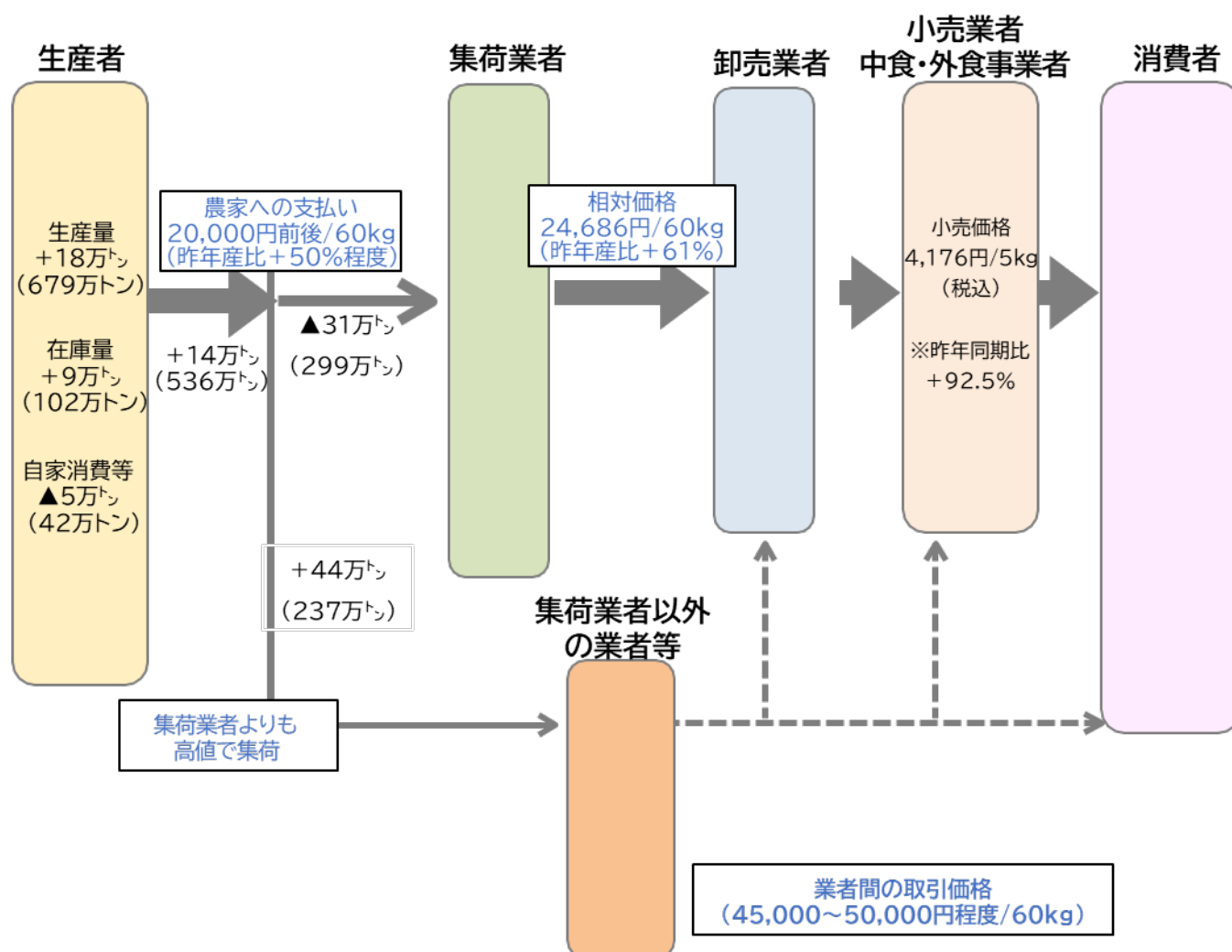
	主食用米	備蓄米	戦略作物						
			加工用米	新規需要米				麦	大豆
				新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵 粗飼料用稲)		
R 3 年産	130.3	3.6	4.8	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5
R 4 年産	125.1	3.6	5.0	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9
R 5 年産	124.2	3.5	4.9	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8
R 6 年産	125.9	3.0	5.0	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4
R 7 年産 (4月末時点)	131.7	1.7	4.4	1.1	0.5	6.7	5.3	9.7	7.8
対前年差	5.8	▲ 1.3	▲ 0.6	0.0	▲ 0.1	▲ 3.2	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 0.6

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の7年産意向は、地方農政局等が4月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
2：主食用米の6年産以前の実績は、統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産以前の実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の6年産以前の実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の6年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

供給関連－政府備蓄米の売渡し①

流通の目詰まりと小売価格上昇の背景

- 6年産の生産量は前年産より多い一方で、集荷の大宗を担う集荷業者に米が集まらなかったことから、全体として供給に不足が生じているものではないものの、通常の供給ルートではない流通が増えたことで円滑な流通に支障が生じる状態となりました。
- 具体的には集荷業者への出荷が前年と比べ31万トン減少する一方、集荷業者以外の業者の取引が44万トンに増加しました。
- このため、例年、集荷業者から大ロットで契約して購入していた卸売業者・実需者は、不足分を他の事業者から、小ロットで比較的高い価格で入手することが必要になりました。



供給関連－政府備蓄米の売渡し②

随意契約による政府備蓄米の売渡し

- これまで政府備蓄米31万トン買戻し条件付売渡しにより引渡ししたところです。小売業者、中食・外食事業者まで流通したのは約2割にとどまっており、また、中間業者の経費が高くなることなどにより、スーパーでの店頭価格は依然として高止まりの状況となっています。
- こうした状況を改善するため、安価で安定的な米の供給を図る目的で、「随意契約（※）」による売渡しを開始しています。
- このうち、5月26日から受付を開始した30万トンのうち22万トンは、スピードを重視し、同額・安価でより多くの量を全国の消費者に提供できるよう、大手小売業者に売り渡すこととしました。
- このほか、5月30日からは、広く、あまねく供給する観点から、中小のスーパー、街の米穀店へ対象を拡大し、さらに、6月11日からは、新たに20万トンを対象に売渡しを行っています。

※随意契約とは、競争入札によらず、任意に特定の契約の相手方を選定して、その者と契約を締結します。契約の性質又は目的が競争を許さない場合等に認められます。

<対象者の条件>

- ① 大手小売業者(年間 10,000 トン以上の取扱数量(見込み含む))
 - ② 中小小売業者(年間 1,000 トン以上、10,000 トン未満の取扱数量(見込み含む))
(これらの共同購入を含む)
 - ③ 精米能力を有する米穀小売店(これらの共同購入を含む)
- ※①、②及び③ともに食糧法第47条第2項に規定する届出事業者であること。

<買戻し条件>

買戻しは求めない。

<随意契約の方法>

- 国が提示した売渡価格で販売。
- 8月までに消費者に提供される分を申込み。

受付開始日	対象者	対象米穀	60kg当たり 売渡価格 (税抜き)	備考
令和7年 5月26日～	大手小売業者	30万トン (4年産米:20万トン 3年産米:10万トン)	10,700円 (各年産の加重平均) (4年産米:11,010円 3年産米:10,080円)	受付終了
令和7年 5月30日～	中小小売業者	3年産米: 6万トン	10,080円	受付終了
	米穀小売店	3年産米: 2万トン		受付終了
令和7年 6月11日～	大手小売業者	20万トン (3年産米:10万トン 2年産米:10万トン)	3年産米:10,080円 2年産米: 9,140円	受付中 (6/16時点)
	中小小売業者	※このうちの3年産10万トンと中小小売業者向けの残余の約2万トン(令和3年産)を先行して売渡し		
	米穀小売店			

○申込みの確定情報等最新の情報はこちら↓

https://www.maff.go.jp/j/seisan/syoryu/bichiku_zuikai/zuikai.html



供給関連－政府備蓄米の売渡し③

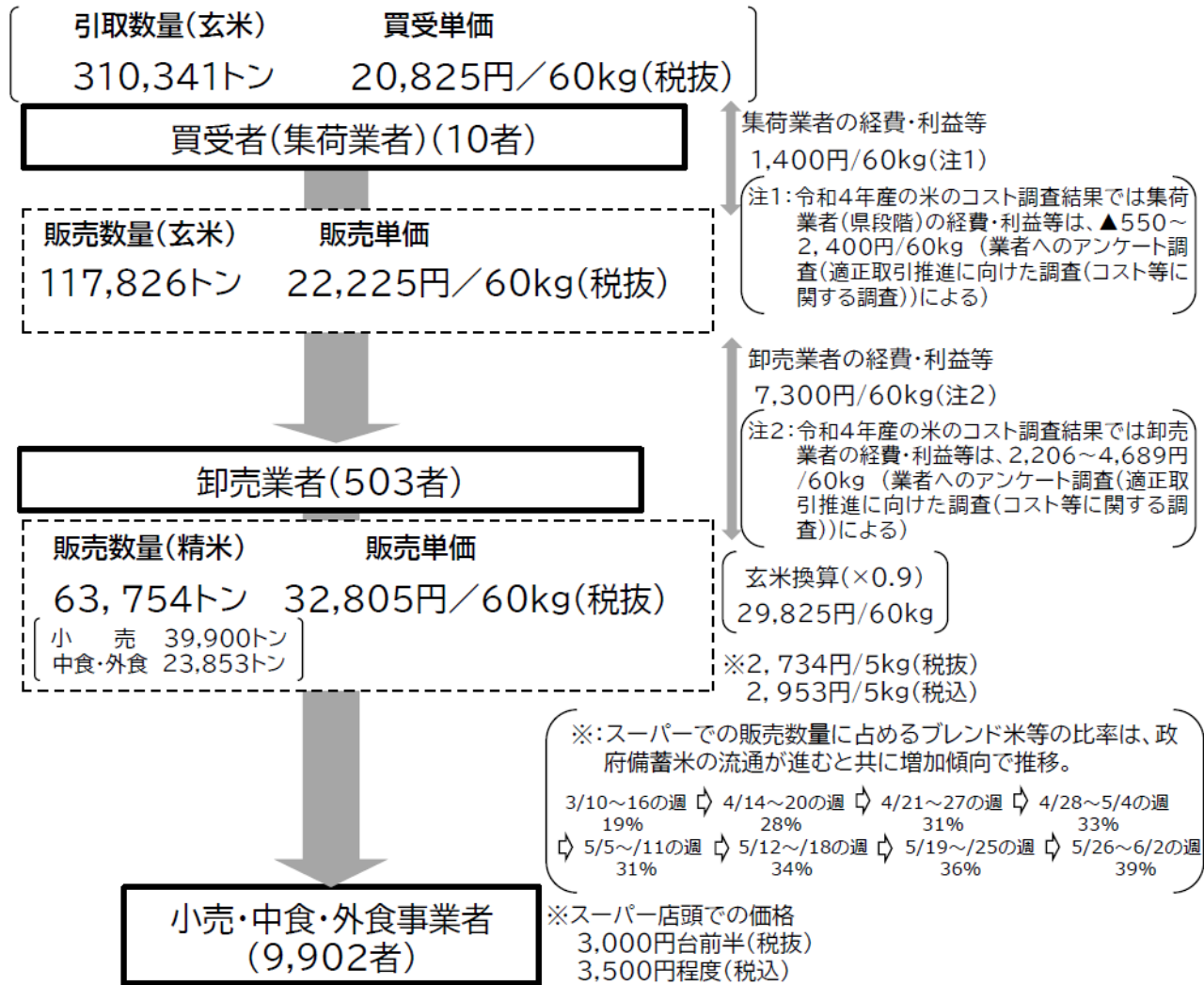
政府備蓄米の買戻し条件付売渡し (1) 入札結果

一定期間後に買戻すことを条件として、3回の入札を実施し、約31万トンが落札されています。

回数	実施日	参加者	落札数量	落札価格(※1)
第1回	令和7年3月10日(月)～12日(水)	7事業者	141,796トン	21,217円(税抜き) 22,914円(税込み)
第2回	令和7年3月26日(水)～28日(金)	4事業者	70,336トン	20,722円(税抜き) 22,380円(税込み)
第3回	令和7年4月23日(水)～25日(金)	6事業者	100,164トン	20,302円(税抜き) 21,926円(税込み)
計		10事業者 (※2)	312,296トン	20,812円(税抜き) 22,477円(税込み)

※1：落札された販売区分の加重平均価格であり、容器包装込みの玄米60キログラム当たりの金額
※2：第1回から第3回の合計（ただし、重複を除く）

(2) 政府備蓄米の買戻し条件付売渡しに係る流通実績（3/17～5/25）



注 事業者数は、異なる買受者から同一の卸売業者への販売もあることから、延べ数としてカウント。
販売数量は、実トン。()内の値の販売金額は、60実kg当たりの単価。

MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

輸入米の入札情報については、農林水産省ホームページの「農産」の分野別分類「米（稲）・麦・大豆」、品目別分類「輸入米麦入札関連資料」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/seisan/boueki/nyusatu/index.html> 】

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オーストラリア	その他	合 計	うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	－	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	－	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	－	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度	365	264	56	74	8	767	655	100
平成30年度	359	316	69	14	8	767	701	59
令和元年度	360	306	83	0	17	767	681	77
令和2年度	360	322	70	－	15	767	699	60
令和3年度	345	314	69	27	12	767	743	21
令和4年度	236	398	81	40	11	767	751	14
令和5年度	348	333	28	41	16	767	693	66
令和6年度 （3月末現在）	346	286	42	70	19	767	649	100

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注：1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、例年0.3～0.4千トン程度